

平成27年度

事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

平成27年度事業報告

平成27年度の事業は、前年度と同じように、事業計画に従って「助ける」「集める」「広める」事業を行った。

I. 事業の状況

1. 「助ける」研究助成事業

2015年度の研究助成課題の応募数は、個別研究助成が55課題と過去最多に近い応募数となり、育成研究助成も19課題と3年ぶりに増加し、応募数の合計74課題は新記録となった。そのため、採択数を前年度よりそれぞれ一つ増やして個別研究助成8課題、育成研究助成3課題を採択した。

4月初旬、これらについて助成金を交付した。**資料-1**

これによりこれまでに助成した課題数は173課題、助成金額の累計は184,428,000円となった。

2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、交換図書、学会の聴講

軟体動物後鰓類(ウミウシ)に関する研究情報の収集は、今年度は総種数で4,422種(+60種)、プリント数で18,630頁(+240頁)となった。研究情報を収集するため、日本水産学会(3月:東京海洋大学)、日本貝類学会(5月:蘭越町山村開発センター)、日本動物分類学会(6月:広島大学教育学部)、日本動物学会(9月:新潟大学)等に参加し、新しい研究情報を得て、そのいくつかは「うみうし通信」に掲載した。

3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

「うみうし通信」当財団の広報誌であり、博物館・研究所等との交換図書ともなっている。今年度はNo.87~No.90まで、4号を発行した。印刷部数は1,600部、配布部数は1,300部、有料で配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館をはじめ、水産庁、大学等、水産研究所、水族館等、財団関係者等である。

「うみうしくらぶ」

「うみうしくらぶ」の期末会員数は312となり、個人会員299名で前年度より10名増加(退会8名、新入18名)、法人会員は1社増えて13社となった。会費収入は753,000円、その他の収入と前期繰越金の合計により、収入合計は817,722円となり、これを受取会費として収入に計上した。一方支出は、「うみうし通信」の発行費用が4,517,982円、1部単価706円で、会員の費用負担分は954,512円となった。一方事業費(見学会・勉強会の費用)の合計が1,246,802円となり、その結果、

財団の負担分は 497,705 円で、前年度より 68,625 円減少した。

見学会 (5月5日)

第9回「親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」を、例年と同じ観音崎自然博物館で開催した。前年度の参加者に案内を送ったところ、口コミで参加者が増え、過去最多の38家族131人の参加となった。博物館の河野主任研究員と相談の上、全員を受入れることとした。幸い好天だったので、博物館の中庭を利用した青空教室での開催。例年のようにタテジマイソギンチャク、ヒメヒトデ、サガミミノウミウシなどを観察し、昼食は家族ごとに芝生の上で。午後からは新しいプログラムで、うみうしくらぶ会員でもある為貝和弘さんにカニの解説と、そのあと画用紙と鉛筆を配って子供たちにカニのスッチに挑戦してもらい、それらを「うみうし通信」No. 87に載せた。その後は「海藻おしば」の標本作り、そして「うみうしグッズ」をお土産に、見学会は無事楽しく終了した。

勉強会 (7月3日～5日：伊豆大島)

「うみうしくらぶ」の会員を対象とした第21回「磯の生物勉強会」は、首都大学東京(旧東京都立大学)の黒川信先生にお願いして伊豆大島で行った。東京都には、伊豆諸島から小笠原諸島、沖ノ鳥島、南鳥島までが属しており、日本の領海、200海里排他的経済水域(EEZ)の40%が東京都の海となっている。首都大学東京は、この東京の海、島での「自然、社会、文化」の課題に対処する責務を負っていて、そこをフィールドとした多様な教育を展開しているとのこと。

午後9時、竹芝桟橋に沖縄や京都から、数年ぶりの参加者もあって、男性9名、女性7名の16名が集まった。空が白み始めた頃、岡田港に到着。講師をお願いした現地のジオパーク推進委員が出迎えてくれ、御神火温泉で休憩して朝食を済ませ、マイクロバスで2013年の土砂災害の復興現場へ向かう。被災の記念碑に花束を捧げて黙祷。そのあと牛乳工場、地層大切断面や製塩所の見学を経て、磯採集を行うため波浮港へ。昼食後、採集した生物をグループごとに分けて観察し、「神経は何のためにあるのか」という講義をお聴きした。そのあと、波浮の町を散策。夜は宿で懇親会の後、伊豆大島で起きている海の変化やその影響などの講義。二日目は雨のため貝の博物館「ぱれ・らめーる」の見学。タカラガイ類、オキナエビス類などの貴重なコレクションに出会った。ついで大島の成り立ちと噴火の歴史を聴き、ビデオを見て火山と共にあった大島をよく理解できた。今回の勉強会は、生物だけでなく、地層とか植生とか、自然の成り立ちに一步近づく勉強会であった。

II. 財団の運営

1. 評議員選定委員会 平成 27 年 5 月 19 日

開催場所 銀座アスター本店

議 題 評議員の任期満了に伴い、次期評議員 9 名の選任を議決した。

出席者 評議員選定委員会委員 5 名

2. 理事会

第 1 回理事会 平成 27 年 5 月 19 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 平成 26 年度事業報告及び収支決算について
評議員会の開催について

報告事項 代表理事の職務執行の状況報告
その他の報告事項

出席等 決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 9 名
監事出席 1 名

第 2 回理事会 平成 28 年 3 月 16 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 基本財産の維持及び処分の承認について
平成 28 年度事業計画及び収支予算について
2016 年度研究助成課題について
定時評議員会の開催について

報告事項 代表理事の職務執行の状況報告
その他の報告事項

出席等 決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 7 名、監事出席 2 名

3. 評議員会

定時評議員会 平成 27 年 6 月 8 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 平成 26 年度事業報告及び収支決算の承認について

出席等 決議に必要な出席評議員の数 6 名、出席 8 名、欠席 3 名

第 2 回評議員会 平成 28 年 3 月 16 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 基本財産の処分又は除外の承認について
平成 28 年度事業計画及び収支予算の承認について

出席等 決議に必要な出席評議員の数 6 名、出席 9 名

4. 専門委員会

第1回専門委員会 平成27年8月18日

2016年度助成課題募集要項の決定と、2013-14育成研究助成及び2014個別研究助成の報告書の評価を行った。

第2回専門委員会 平成28年2月25日

2016年度応募課題（個別54・育成21）を審査し、理事会に推薦すべき個別研究8課題、育成研究3課題を決定した。

5. 事務的事項

1. 役員人事

評議員11名の任期満了にともない評議員4名が退任した。5月19日、評議員選定委員会において、重任の評議員7名と、新たに2名が選任され、評議員の現在数9名が決定した。

2. 登記

平成27年6月8日、評議員9名の登記を行った。

3. 内閣府への提出と届出

6月24日、評議員7名の重任と2名の就任について、電子申請により「変更の届出」を行った。

7月10日、平成26年度の「事業報告等の提出」を電子申請によって行った。

平成28年3月27日、平成28年度「事業計画等の提出」を電子申請により送付した。

4. 公告（情報公開）

HP上の「平成26年度事業報告書」と「平成27年度事業計画及び収支予算」そして「役員名簿」を更新した。

「広める」告知など

2015年度研究助成の採択課題を公表した。また、「うみうし通信」の紹介やイベントの告知及び、質問コーナーへ回答を載せた。テレビ番組の制作会社からの質問にも応じた。

以上

2015年度研究助成課題が決定しました(応募順)

資料-1

2015年度の研究助成課題は、個別研究助成課題55課題、育成研究助成19課題の応募があり、理事会で審議の結果、次の通り決定しましたので、お知らせします
個別研究助成 (1年間の助成)

申請者氏名 / 共同研究者	所属機関 / 職名	研究課題	助成金額(円)
山名 裕介 (やまな ゆうすけ)	和歌山県立自然博物館 学芸員	紀伊水道周辺におけるナマコ類の分布実態の解明	700,000
頼末 武史 (よりすえ たけふみ)	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所 学術研究員	ケハダエボシ(フジツボ上目ケハダエボシ科)の幼生分散と着底機構に関する研究	700,000
大久保 奈弥 (おおくほ なみ)	東京経済大学経済学部 専任講師	発生様式はサンゴの分類形質となりうるか: インサンゴ目における2つの新亜目の設立を目指して	700,000
戸祭 森彦 (とまつり もりひこ)	筑波大学大学院生命環境科学研究所 生物科学専攻 博士前期課程1年次	イボニシの食性から読み解く多様性維持機構	700,000
山田 晋之介 (やまだ しのすけ)	静岡大学理学部地球科学科 学術研究員	大顎咀嚼系から見る二枚殻節足動物の形態進化	700,000
足立 亨介 (あだち こうすけ) 共同研究者 桜井 素憲 (さくらい やすのり)	高知大学農学部 准教授 北海道大学大学院水産学研究院 特任教授	スルメイカ卵塊に付着する微生物と有機けんだく物に着目した同種の初期餌料の特定	700,000
ロバート ジェンキンス	金沢大学理工学研究域自然システム学系 助教	浅海における鯨骨生物群集の遷移の解明	688,000
竹田 典代 (たけだ のりよ)	東北大学大学院生命科学研究所附属 浅虫海洋生物学教育研究センター 助教(研究特任)	東北沿岸にはエダアシクラゲ配偶子放出機構がなぜ明・暗2タイプ存在するのか?	660,000

育成研究助成 (2年間の助成)

氏名 / 推薦者	所属機関 / 専攻	研究課題	助成金額(円)
大塚 玄航 (おおつか はるゆき) 推薦者 西野 敦雄	弘前大学大学院農学生命科学研究科 基礎生命科学専攻	オタマボヤ類の分類体系に関する形態学的・分子学的検討	初年度 1,000,000
田中正敦 (たなか まさあつ) 推薦者 西川 輝昭	東邦大学大学院理学研究科 生物学専攻	日本産ポネリムシ科の系統分類学的研究	初年度 1,000,000
河村 伊織 (かわむら いおり) 推薦者 ジェイムズ デイビス ライマー	琉球大学大学院理工学研究科 海洋環境学専攻	沖縄島におけるマメスナギンチャク属4種の繁殖生態学的研究	初年度 1,000,000